卵子凍結での目標凍結数は？
「山口県胚培養士研究会」開催

特集



研究と臨床を繋ぐ、管理胚培養士への挑戦

働きながら学ぶ、社会人ドクターという選択
研究から臨床へ、そして管理胚培養士へ

REPROLIFE

Journal

Vol.03 2026

REPROLIFE®

働きながら学ぶ、社会人ドクターという選択



井谷 裕紀 先生

井谷 裕紀 先生 | IVF大阪クリニック 胚培養士

プロフィール

経歴

- 近畿大学農学部卒業
- 近畿大学大学院農学研究科 博士前期課程修了
- IVF大阪クリニック在職
- 広島大学大学院統合生命科学研究科
  博士課程後期在学中

はじめに　大学院に行きたいけれど、仕事を辞めるわけにはいかない。研究と臨床、どちらも諦めたくない、そんな思いを抱く胚培養士の方は少なくないでしょう。今回ご紹介する井谷裕紀先生は、IVF大阪クリニックで胚培養士として勤務しながら、広島大学大学院統合生命科学研究科博士課程で学ぶという、まさに二刀流のキャリアを歩んでいます。多忙を極める日々の中で、井谷先生はどのように両立を実現しているのでしょうか。そして、大学院での学びは臨床現場にどのような変化をもたらしているのでしょうか。働きながら学ぶという選択の実際について、率直にお話を伺いました。

1. 胚培養士への道のり

研究室が育てる胚培養士 ― 近畿大学という土壌

私の胚培養士への第一歩は、近畿大学農学部の動物発生工学研究室から始まりました。哺乳類の卵の成熟と未受精卵の凍結保存という、まさに生殖医療の基礎となる研究に学部時代から取り組んでいました。大学入学時には胚培養士という職業の存在すら知りませんでした。転機となったのは1年生の時です。教授が講義の中で胚培養士という仕事について触れたことでした。動物の細胞に興味を持っていた私は、その研究室に配属され、研究を深めていく中で、ここで学んだことを活かせる仕事として胚培養士という道を見出しました。この研究室の最大の特徴は、大学院まで残っている人も含めて、多くが胚培養士になります。学会は同窓会みたいな感じです。

先輩たちが築いた道 ― OB・OGネットワークの力

当時は大学での胚培養士を目的とした授業などはなく、胚培養士コースのような講座のある大学がでてきたのは私が修了した後のことでした。

それでも、研究室内には豊富なOB・OGネットワークがあり、胚培養士とはこういう仕事ですよという生の声を聞く機会に恵まれていました。

先輩がたくさんいる環境は、職業選択において大きなアドバンテージとなります。実際の業務内容、クリニックの雰囲気、キャリアパス――こうした情報を事前に得られることで、就職後のギャップを最小限に抑えることができます。

IVF大阪クリニックとの出会い ― ご縁が導いた就職

IVF大阪クリニックを選んだ理由は、近大の大学院の先生からの推薦がきっかけでした。今も大学時代の先輩や後輩が同じクリニックで働いているという安心感もありました。

働き始めて想像と違った部分は、卵にたどり着くまでが長かったことです。体系化された教育プログラムの中で、最初の1年間は精液調整が中心となります。年末くらいまではずっと精液の検査や調整を担当し、2年目くらいでやっと培養室に入れるようになりました。

2. 広島大学大学院への進学

社会人ドクターへの道 ― 声がかかったタイミング

広島大学大学院を選んだ経緯は、ご縁とタイミングという言葉で表現できます。IVFグループと広島大学の島田先生が企業とのプロジェクトでご縁があり、私自身はそのプロジェクトには参加していなかったのですが、社会人ドクターを募集しているというお話を聞いて立候補しました。

以前から社会人ドクターへの道は視野に入れていました。ただ、具体的にどこに行くかはふわっとしか考えていませんでした。IVFグループには慣習的に近大に社会人で行く人が何人かいたため、そこかなと漠然と思っていたところ、今回の広島大学とのご縁が舞い込んできました。

入学試験の実際 ― 準備よりも日々の積み重ね

試験内容は英語の試験と、口頭試験で今までの業績、学会発表、研究内容を聞かれるというものでした。特別な準備期間を設けたわけではなく、日々の業務と研究の中で培ってきた知識と経験が、そのまま試験対策になっていました。

卵の成熟とミトコンドリア ― 未解明領域への挑戦

現在、広島大学で取り組んでいる研究テーマは、卵の成熟とミトコンドリアの関わりです。卵の成熟には核の成熟と細胞質の成熟の2種類があることが知られています。核の成熟は極体の放出という形でビジュアルに確認できますが、細胞質の成熟については、その存在は確実視されているものの、具体的なメカニズムは未だ解明されていません。

近年の研究で、卵の成熟過程でミトコンドリアの分布や局在が変化することが明らかになってきました。このミトコンドリアの動態が、卵の成熟、ひいては受精能力に関わっているのではないか――そんな仮説のもと、ミトコンドリアにアプローチすることで卵の完全な成熟を促進する方法を見つけることが研究の目的です。

3. 仕事と学業の両立

効率を極めたスケジュール設計

仕事と学業の両立について、スケジュール管理を工夫しています。週に1回の研究日を、月に4日連続にまとめて広島大学に通うことで培養などの実験時間を確保しています。

広島までは新幹線で片道約2時間。週1回通うよりも、月に1回4日間集中する方が、移動の負担も時間のロスも最小限に抑えられます。

それ以外の日は、クリニックの施設でヒトの廃棄卵を使った実験を行っています。臨床と研究、両方のフィールドを持つことで、相乗効果が生まれています。

― 広島での濃密な4日間

通常の勤務日は、就業時間まで働いた後、実験やデータ解析、論文執筆に時間を充てています。一方、広島での4日間は研究に完全集中する時間です。マウスの注射から卵の採取、ミトコンドリアの染色、ミトコンドリア特異的なオートファジー（マイトファジー）の観察まで、一連の実験を自分の手で行います。

忙しい日は実験室にこもります。休憩はちょこちょこ取りつつも、基本的には黙々と作業を続ける日々です。

研究室全体では20人以上が在籍していますが、その中で働きながら通っているのは3名です。外国人留学生が多い国際的な環境も、刺激的です。

クリニックの手厚いサポート ― 両立を支える組織力

シフト調整はクリニックが全面的にバックアップしてくれます。大学院に通っている人が複数いるため、柔軟に調整してもらえる体制が整っています。

新幹線の車内は、切羽詰まっている時期にはひたすらパソコンに向かい、データ解析やレポート作成に時間を充てています。

オンライン講義の活用 ― コロナ禍が生んだ新しい学び方

講義については、広島での4日間は実験と指導教官とのディスカッションに集中し、必要な単位は全てリモートで取得しています。コロナ禍を契機に、大学院教育のオンライン化・オンデマンド化が急速に進みました。この変化が、社会人ドクターにとっては大きな追い風となりました。

講義は録画されており、好きな時間に視聴してレポートを提出したり、試験を受けたりできます。課題に対して資料をまとめてプレゼンテーションを作成し、アップロードすると、それに対して教員からフィードバックがあるという双方向型の講義もあります。時間と場所の制約を超えた学びが、働きながらの学位取得を現実的なものにしています。

博士課程こそ学べ ― 変わる大学院教育の潮流

興味深いのは、ドクターコースで講義が充実しているという点です。従来、博士課程は修士課程と異なり、講義はほとんどなく実験に専念するものでした。しかし数年前から博士課程こそ学べという動きが全国的に広がり、修士の時より取得単位が多くなっています。これは文部科学省の方針転換によるもので、博士課程でも体系的なカリキュラムを組み、幅広い知識と視野を養うことが重視されるようになりました。研究の専門性を深めるだけでなく、周辺領域の知識も身につける――この教育方針の変化が、社会人ドクターにとっても学びの質を高める結果となっています。

好きだから続けられる ― モチベーションの源泉

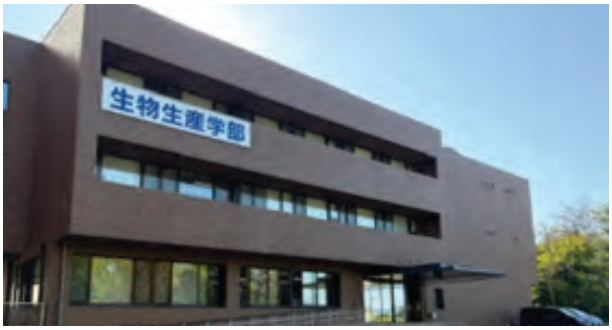
勉強時間の確保については、仕事が終わった後や休日を活用しています。今は単位を取り切ったため、実験も順調に進んでおり、以前ほど時間に追われることはなくなりました。

4. 大学院での学びと実務の相乗効果

原理を理解することの重要性

今の生殖医療の培養室は、標準化されたプロトコルや自動化された機器により、原理が分かっていなくても業務を遂行できる環境が整っています。しかし、それは同時にリスクも孕んでいます。トラブルや新しい技術導入時に、原理が分かっていないと間違った判断をしてしまう――この指摘は、現場の培養士全員が心に留めるべき警鐘です。

大学院や大学で基礎から学ぶことで、既存システムの成り立ちを深く理解でき、適切な判断や的確な対応が可能になります。また、「このシステムは本当に最適か？」と批判的に検証する視点も養われます。マニュアル通りの作業だけでなく、常に改善を探る姿勢が培養士としての成長を促し、施設全体の技術レベル向上に繋がります。



広島大学 研究棟

基礎と臨床のギャップを埋める ― 橋渡しの役割

現場での実務経験があるからこそ見えてくる研究テーマもあります。大学での基礎研究は進度が速く、臨床に降りてくるまでに数年から十数年かかることも珍しくありません。

その結果、臨床現場に技術が導入される頃には、実はこの技術にはこういう問題があったということが基礎研究では既に明らかになっているのに、臨床ではまだ古い認識のまま使われている――そんなギャップが生じることがあります。

今、臨床でこういうことをやっていますよという現場の状況を基礎研究者に伝えることで、そのギャップを埋めることができます。臨床と研究の両方を知る人材が、まさにこの橋渡し役を担っています。

患者説明の質的向上 ― 深い知識が生む信頼

患者さんへの説明についても、大学院での学びが活きています。基本的には噛み砕いて分かりやすく説明することを心がけていますが、情報社会の現代では、患者さんも相当な知識を持っていることが少なくありません。

結構マニアックな質問も来ます。そんな時、表面的な知識だけでは対応できません。原理から理解し、最新の研究動向も把握しているからこそ、どんな質問にも自信を持って答えられる――この対応力が、患者さんとの信頼関係構築にもつながっています。

5. キャリア形成と将来展望

管理胚培養士への挑戦 ― 学位が開く新たな道

私は現在、管理胚培養士の資格取得を目指しています。管理胚培養士は、生殖補助医療の質を管理・向上させる責任者として、高度な知識と経験が求められます。大学院での学びは、この資格取得においても大きなアドバンテージとなります。研究を通じて培った論理的思考力、最新の知見、そして学術論文を読み解く力――これらすべてが、管理胚培養士としての資質を高めます。

原理と実践のバランス ― 教育の要諦

現在の培養室は、原理が分からなくてもマニュアル通りに操作すれば一定の成果が出るシステムになっています。しかし、原理を理解していないと、ここは絶対に外してはいけないというポイントが分からず 、重大なミスにつながる可能性があります。原理が全て分かっていなくても、ここは絶対に守ってくださいねという指導を徹底する――この実践的なアプローチが、安全性と効率性を両立させています。

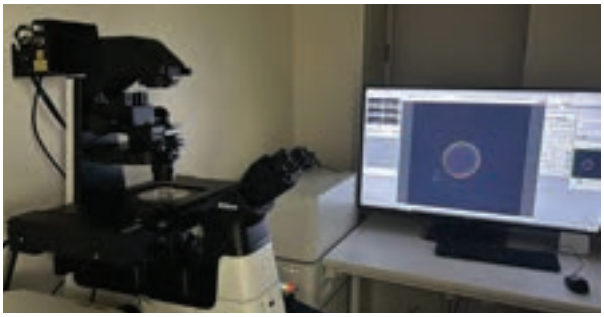
6.メッセージ

これから胚培養士を目指す学生さんへ

動物の卵を扱う研究室にいるなら、知識を深めるのはもちろんですが、卵を触る感覚を体に覚え込ませることが何より大切です。自転車と同じで、体が覚えます。
臨床現場では、入職後に実際の卵を触るまで1〜2年かかることも珍しくありません。学生時代に卵を扱った経験の有無で、手つきが明らかに違います。この手技の記憶は、一度身につければ失われにくい貴重な財産です。卵を全く触っていない学生でも、それまでの知識には汎用性があります。実際、この業界に入ってから教わることがほとんどです。だからこそ、どんなバックグラウンドでも、安心してこの業界に飛び込んできてほしいです。

大学院進学を迷っている方へ

学位は取れる時に取る、資格は取れる時に取った方がいいです。
完璧な環境を待っていては、いつまでも一歩を踏み出せません。
実際、全くサポートがない中でも大学院に通っている人はいます。
重要なのは、タイミングが来た時に躊躇せずチャレンジすることです。
「いつか行こう」と思っているだけでは、そのいつかは永遠に来ないかもしれません。ご縁や機会は突然訪れるもの。その時に「はい」と言える準備と勇気を持つことが、新たなキャリアの扉を開きます。



研究室 1

おわりに　働きながら大学院で学ぶという選択は、決して平坦な道ではありません。月に4日間の広島通い、就業後の実験、オンライン講義のレポート――多忙を極める日々です。
しかし井谷先生の姿からは、その大変さを上回る充実感と、学びへの純粋な情熱が伝わってきました。学位は取れる時に取るというメッセージは、キャリアを考える全ての培養士の皆様に届けたい言葉です。完璧なタイミングを待つのではなく、機会が訪れた時に一歩を踏み出す勇気。その勇気が、あなたのキャリアに新たな可能性を開くかもしれません。



研究室 2

両立の秘訣

指導教官とコミュニケーションを取るように心掛けています。
広島大学では、島田先生 をはじめ複数の教員が気軽に研究室に来てくれて、フランクに相談に乗ってくれる環境があります。
困ったことがあれば相談すれば解決してくれる――この心理的安全性が、研究を続ける上で何より重要です。
また、職場に大学院経験者がいることも大きな支えになります。
同じ道を歩んだ先輩からのアドバイスは、具体的で実践的です。
相談する人がたくさんいるというのは心強いです。孤独に戦うのではなく、周囲のサポートを積極的に求める――この姿勢が、両立を可能にする最大の秘訣です。

IVF大阪クリニック様ご紹介文

IVF大阪クリニックは、東大阪市に位置する不妊治療専門クリニックで、IVFなんばクリニック・HORACグランフロント大阪クリニックとともにIVF JAPANグループを形成しています。一般不妊治療から高度生殖補助医療まで幅広く対応し、未熟卵体外受精（IVM）、着床前検査（PGT）、がん患者の妊孕性温存など特徴的な診療を展開。胚培養における安全管理体制を徹底し、統合医療プログラムとして心理ケアなどの補完療法も導入。「痛みの無い診察」「プライバシー保護」を基本姿勢とし、患者との相互理解を深める情報発信にも積極的に取り組んでいます。



研究から臨床へ、そして管理胚培養士へ



山上 一樹 先生

山上 一樹 先生 | 英ウィメンズクリニック にしのみや院 培養室長

プロフィール

経歴

- 九州大学農学部卒業
- 九州大学大学院 修士課程修了
- 一般企業（営業職）勤務
- 九州大学大学院 博士課程修了
- 胚培養士として臨床現場へ
- 管理胚培養士資格取得
- 英ウィメンズクリニック にしのみや院 培養室長在職

はじめに　管理胚培養士という資格は、高度な専門性と継続的な研究活動が求められる、胚培養士のキャリアにおける一つの到達点です。通常業務と並行して論文執筆や学会発表を重ね、長期にわたる準備期間を要します。今回お話を伺ったのは、英ウィメンズクリニックにしのみや院で培養室長を務める山上一樹先生です。九州大学農学部で家畜の繁殖研究に取り組み、博士課程まで進学した後、胚培養士へと転身。研究職ではなく臨床の道を選んだ理由、そして管理胚培養士取得の過程で感じた苦労とやりがいについて、率直にお話しいただきました。

1. 研究の世界から胚培養士の世界へ

九州大学での研究生活

私の胚培養士としてのキャリアは、実は九州大学農学部での研究生活から始まっています。専門分野は家畜の繁殖で、学部時代から培養系の技術を使った実験に取り組んでいました。

当時取り組んでいたのは、ラットやマウスをモデル動物として用いた子宮内膜上皮細胞について研究をしていました。学部では子宮内膜の細胞を培養する技術を確立し、大学院に進学してからはその培養した内膜細胞を使って、胚培養液がどのような影響を与えるかを調べる研究をしていました。これは不妊治療におけるシート法の基礎研究にあたります。

研究室配属のきっかけは、意外なものでした。九州大学には伝統的な球技大会があり、各研究室対抗でソフトボール大会を行った後、朝まで続く飲み会で研究室をはしごしながら先輩たちと交流するというイベントがあったのです。そこで指導教官となる先生と出会い、面白そうな雰囲気に惹かれて研究室を決めました。明確にこの研究をしたいという動機があったわけではなく、やり始めたら楽しかったという感覚でした。

一度就職、そして再び大学院へ

修士課程修了後、一度は全く別の分野の営業職に就職しました。しかし、そこで感じた違和感が、私を再び大学院へと向かわせることになります。
営業職では、今日やったことが結果に結びつくまでの道のりが見えにくく、仕事への手応えを感じることが難しかったのです。
周りの同期がほぼ進学する環境だったこともあり、もう少し専門性を突き詰めてみようと考え、博士課程に進学しました。
当時は正直、胚培養士という職業すら知りませんでした。

胚培養士という選択肢との出会い

博士課程で研究を進める中で、社会人ドクターとして研究室に来ていた胚培養士の方と一緒に実験する機会がありました。働きながらドクターを取ろうとしており、常に忙しい方だったため、私が実験のフォローをしたり、実験の組み立てを打合せしたりする中で、胚培養士という仕事を知り、胚の知識も少しずつ学んでいきました。
博士課程3年間を経て、次の就職を考えた時、その方が身近にいたことで、胚培養士が選択肢として浮上してきました。
アカデミックな研究職については、正直なところ自信がありませんでした。アイデアと実績がないと研究費もつかないという世界で、博士課程の3年間で、やっていく自信を持つことができませんでした。
一方で、胚培養士という仕事には大きな魅力を感じました。今日採卵したものが明日には受精しているかどうかが分かる。今日やったことが明日、あるいは1ヶ月後には妊娠という形で結果が出る。その結果が直接的に繋がっていて、しかも短いスパンで見えるという点が、最初の就職で感じていた引っかかりを解消してくれると感じたのです。
他にもそういう仕事はあったかもしれませんが、ちょうど研究分野とも重なり、出会いもあったため、胚培養士の道を選びました。

2. 胚培養士としてのスタート

最初の戸惑いと緊張

胚培養士として働き始めて最初に感じたのは、操作の繊細さへの戸惑いでした。研究の時はかなりアバウトに操作していたのですが、臨床では非常に繊細な操作が求められます。
特に記憶に残っているのは、胚操作に対する緊張感です。練習の段階から、これを無くしてしまったらどうなるのだろうという思いがずっとあり、慣れるまでは手が震えていました。

大学院での経験が活きた部分

大学院での経験が胚培養士として直接役に立ったかというと、正直、すべてが直結したわけではありません。
主に使っていたのは子宮内膜側の細胞だったので、直接的にその経験が活かされていると実感することは多くありませんでした。ただし、内膜のホルモン応答、プロゲステロンやエストロゲンを培養系に添加した実験をしていましたし、マウスの過排

卵処理にPMSGやhCGも使っていたので、排卵のメカニズムやホルモンの応答についての知識は、そのまま使える知識でした。
また、胚の発生についてはもっと勉強しておけばよかったと思いました。GVやＭＩといった用語を聞いた時、聞いたことはあっても深く考えたことがないレベルだったので、そこの分野をもっとやっておくべきだったと感じました。

研究と臨床の違いから学んだこと

研究室と臨床現場で最も大きく違うと感じたのは、設備の管理の徹底度です。
これは私がいた研究室との違いかもしれませんが、大学レベルでは培養器の管理が結構ずさんだったり、例えばCO2の実測値は計っていないような状態だったりしました。

しかし、実際に患者様の胚を預かる臨床現場では、培養器の管理や清潔操作が徹底されています。毎日培養室の機器や環境をチェックし、胚の培養環境を整える。このような点が、研究レベルと臨床レベルでの大きな違いだと最初に感じました。この徹底した管理の重要性を学べたことは、胚培養士としての基礎を築く上で非常に大きかったです。

共通する技術の価値

一方で、共通する部分もあります。パスツールピペットやマウスピースを使って　卵子を吸い上げる操作などは、研究でも臨床でも変わりません。マイクロピペット は翌日のディッシュやバイオプシーの準備をする時に毎日使っていますし、使っている道具はある程度共通しています。
研究で培った基本的な手技は、確実に臨床でも活きています。

3. 管理胚培養士への道のり

資格取得を意識したきっかけ

管理胚培養士の資格を取ろうと意識し始めたのは、入職3年目頃、最初に論文を書くという話が出た時でした。
応募要項の資格要件に論文が入っているため、論文を書けなかったら受けようがないと思っていたのですが、書くきっかけがあったことで資格受験までは行けると意識するようになりました。

5年間の準備期間

準備期間という意味では、5年かかりました。
まず胚培養士の資格を取得し、それから5年後に更新があり、最短でその5年後に管理胚培養士を受験できるという形になります。
その間、あと何があれば受験資格が得られるかを考えていました。
論文をいつまでにどれとどれが通れば足りるか、学会発表が今度のこれとこれに行けば足りるか、というのを一生懸命数えて、受験しました。

業務と並行した準備の工夫

管理胚培養士の試験は口述試験のみになります。大変だったのは、臨床の通常業務と並行して準備をすることでした。試験対策というよりは、業務をしながら論文を書いたり、学会発表の準備をしたり、要件の数を合わせていくことに注力しました。
私の場合、臨床データの蓄積を集計して論文化したようなものが中心だったので、時間を見つけて対応していました。必要であれば休みの日も使いましたが、通常業務の延長線上で効率的に進められるよう工夫しました。

試験当日の様子

試験は面接形式で行われました。会議室のような場所で、緊張感のある雰囲気の中で実施されます。試験対策としてやったのは、提出した論文や学会発表の内容を復習したことです。自分が出した論文について予め復習しておきました。

4. 管理胚培養士としての現在と展望

取得後の継続的な学び

管理胚培養士を取得して感じたのは、取得後も学会発表の回数や論文の投稿が継続的に求められるということです。
次の更新までにあと何回発表しなければいけない、論文があと何本必要か――これが常に頭にあります。発表は5年で5回必要なので年1回はやらなければなりません。新しいテーマで発表しようとすると、年に1回新しい発表をするのはなかなか難しい。
ただ、これは裏を返せば、常に最新の知識をアップデートし続けられる仕組みでもあります。臨床業務だけに埋没せず、研究的な視点を持ち続けられることは、胚培養士としての成長にもつながっています。

管理胚培養士の可能性

現在、管理胚培養士は全国に40人ほどいると聞いていますが、私自身面識がある方は多い訳ではありません。
せっかく取った資格ですから、それが何か前向きに使えるような仕組みを考えていくのも必要かと思います。管理胚培養士会のようなものがあって、この資格のあり方や業界への貢献について議論できる場があれば、より良い形で資格を活用できるのではないでしょうか。

5. 現場での役割と後輩指導

培養室長としての立場

現在、私は英ウィメンズクリニック　にしのみや院で培養室長をしています。指導で心がけているのは一緒に考えるという姿勢です。
指導というと、マニュアルに沿わないことをした時に対応することになりますが、なぜそんなことをしたの？と突き詰めていくと、実はマニュアルの方が合理的でなかったりすることもあります。ですから、叱るのではなく、なぜそうなったの？を一緒に考えるようにしたいと思っています。トラブルが起こった時の接し方は、後輩によって少しずつ変える必要があると感じています。

クリニックの体制と連携

英ウィメンズクリニックは、三宮本院とにしのみや院を合わせて胚培養士が40人ほどいます。にしのみや院には育休中を含めて4人の正社員がおり、現在2人が育休中のため、三宮本院から2人がヘルプという形で来てくれて運営しています。手順書は可能な限り同じに作ってあり、基本的には三宮で一人前になってから、にしのみや院に来るという流れです。行き来は結構あり、三宮と西宮は距離も近いので、急遽来てくれといった対応がしやすい環境です。この柔軟な連携体制が、両院の強みになっています。教える立場になって改めて気づくのは、性格って本当に人それぞれだなということです。

その人に合わせて、その人が成長できるような教え方ができたらいいなと思っています。教育のペースについては、三宮で一通りの手技を習得してから、にしのみや院に異動するシステムなので、そこまで意識する段階にはありませんが、一人ひとりの個性を理解することの大切さを日々感じています。



培養室

6. 現在の研究活動と今後の展望

臨床業務と並行する研究

現在も研究活動は続けていますが、中心は培養液の検討です。通常業務の中で一部の培養液が変更になり、その成績を後から集計するという形で対応できるため、臨床業務と並行しやすいのです。本当はもっと色々やりたいという思いはあります。でも、限られた時間の中で、今できることを着実に積み重ねていくことが大切だと考えています。

クリニックの基盤を固めることが今の目標

英ウィメンズクリニックにしのみや院は、開院して丸3年ほどの、まだ新しい施設です。まだ三宮本院からのヘルプでどうにか賄っている環境なので、いずれは完全にここで採用した胚培養士でやっていくという形を取るかもしれません。今はまだ色々とこれからやっていかなければいけないことが非常に多い段階です。ですから、今後の目標を聞かれたら、まずはここでしっかりときちんと無事にやっていくことが一番の目標です。ここの基盤をしっかりと固めることが、今の私の役割だと考えています。

7. 管理胚培養士を目指す方々へ

資格取得後も続く学び

管理胚培養士を目指す方への心構えという意味では、資格を取って終わりではなく、取ってからも学会発表の回数や論文投稿がずっとついて回り、次の更新までのカウントが始まるということは、覚悟しておいた方がいいと思います。

ただ、これは決してネガティブなことではありません。常に学び続ける姿勢を持ち続けられるということでもあります。幸い、今のところ休みをそれに費やすということではなく、ルーチン業務の延長の中で対応できる範囲で何とかやっています。工夫次第で、両立は十分可能です。

研究経験のある方へ

研究経験がある方が胚培養士を目指す場合、その経験は必ず活きます。直接的に使える知識もあれば、実験の組み立て方や論理的思考など、間接的に役立つスキルもあります。私自身、大学院での経験がすべて直結したわけではありませんが、ホルモンの知識や基本的な手技は確実に役立ちました。そして何より、研究を通じて培った探究心や、データを見る目は、臨床現場でも大きな武器になります。今日やったことが明日には結果になる――この手応えを感じられる胚培養士という仕事は、研究経験者にとっても非常にやりがいのある選択肢だと思います。

おわりに　研究の世界から臨床の世界へ、そして管理胚培養士へ。山上先生のキャリアは、その時々の出会いや感覚を大切にしながら、一歩一歩を積み重ねてきた道のりでした。今日やったことが明日には結果になる、その手応えを求めて選んだ胚培養士という職業。研究での経験が直接役立つことは少なかったとしても、基礎的な知識や実験の組み立て方は、確実に今の仕事に活きています。管理胚培養士という資格については、取得の過程での工夫、そして取得後も続く学びの重要性など、リアルな声を聞かせていただきました。資格の維持には継続的な努力が必要ですが、それは同時に常に成長し続けられる機会でもあります。にしのみや院の基盤をしっかり固めていくという目標を掲げ、日々の臨床業務に真摯に向き合う山上先生の姿勢からは、胚培養士としての誠実さと責任感が伝わってきます。待つのではなく、機会が訪れた時に一歩を踏み出す勇気。その勇気が、あなたのキャリアに新たな可能性を開くかもしれません。

英ウィメンズクリニック様のご紹介文

英ウィメンズクリニックは、神戸・西宮エリアを中心に展開する不妊治療専門施設です。三宮院、西宮院、垂水院、メンズクリニックの4拠点で診療を提供し、高度生殖医療や採卵・卵子凍結、凍結融解胚移植などの治療を実施。遺伝カウンセリング、培養士外来、男性不妊外来、オンライン診療やHanaプレチェック（妊娠前ケア）など幅広いサービスを展開しています。鍼灸・水素吸入・アロマなどの補助療法、自己注射教室、ヨガ等のサポートプログラムも充実。



卵子凍結での目標凍結数は？

近年、日本国内でも卵子凍結への関心が高まっています。日本産婦人科学会が毎年発表しているARTデータブックによると、東京都が社会的卵子凍結への助成を開始した2023年には、卵子凍結での採卵周期数は前年より1,372周期増加し3,980周期に達しました。東京都を皮切りに、2025年11月現在、HP上では8つの自治体の助成制度が確認でき、2026年度にはこども家庭庁のモデル事業として約10都道府県での実施が予定されるなど、今後も卵子凍結の件数は大幅に増加することが予想されます。

卵子凍結は、ただ採卵して凍結すれば完了というものではありません。患者様が卵子凍結のメリット・デメリットを十分に理解することが非常に重要です。卵子凍結を行ったからといって将来必ずしも子供が持てるとは限らないこと、1回の採卵で十分な数の卵子が凍結できない可能性があることなど、現実的な情報提供が求められます。

では、最適な卵子凍結数は何個なのでしょうか。

ある研究によると、20個のＭⅡ卵子を凍結した場合の生児獲得率は、35歳未満で90%、38歳で70%、40歳で50%、43歳で25%と報告されています*1。別の研究では、35歳以下では使用卵子数が増えるほど少なくとも1人の生児出産を達成する確率が上昇するものの、36歳以上では20個以上の卵子を使用しても生児出産の確率は上昇せず50%程度にとどまるとされています*2。2024年のASRMでは、融解卵子数別の累積出生率が報告され、1-9個、10-14個、15-19個、20個以上の場合に35歳以下ではそれぞれ31.3%、47.1%、52.6%、81.0%であるのに対し、38-40歳では21.3%、41.9%、50.0%、56.9%、40歳以上では12.5%、33.3%、28.6%、27.8%という結果が示されました*3。

先日行われた日本IVF学会では、20個以上の凍結を目指して採卵を続ける患者群と、目標よりも少ない数で採卵をやめる患者群のどちらが多いかという質問が出た発表もありました。発表者からは、少ない数でやめる患者群のほうが多いという回答でした。採卵回数を重ねることは、患者様の身体的・経済的負担の増大に直結します。

発表されているデータを参考に現実的な生児獲得の可能性を提示することも重要です。一方で、全ての患者様がデータに当てはまるわけではなく、凍結時の患者年齢、AMH値、初回採卵の結果なども踏まえて総合的に考慮し、患者様一人ひとりに適した目標採卵数の設定が必要であると感じました。

*1：Human Reproduction, Vol.32, No.4 pp. 853–859, 2017
*2：Human Reproduction, pp. 1–10, 2018
*3：Fertility and Sterility October 2024 122(4):e60-e61

「山口県胚培養士研究会」開催



研究会風景

この夏、弊社主催の「山口県胚培養士研究会」を開催いたしました。当日は、山口県内の5施設から10名の胚培養士の方々にお集まりいただき、またオンラインでも全国から3名の方にご参加いただきました。ご多忙の折ご参加くださいました皆様に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

本会は事前にご協力いただいたアンケート結果を基にしたスライド発表から始まりました。各施設の治療成績や、受精卵の凍結・融解といった日常業務の具体的な手法についてデータが共有され、参加者の皆様は熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

その後のディスカッションではさらに踏み込んだ意見交換が行われました。データだけでは分からない現場での工夫や、マニュアルにない状況での判断など、実践的なテーマについて活発な質疑応答がなされました。施設間の垣根を越えて情報を共有し技術を高めようとする先生方の姿勢は、主催者としても大変参考になるものでした。

弊社はこのような胚培養士の皆様が集う情報交換の場が今後の不妊治療全体の発展にとって重要であると考えております。

今後も現場の皆様のお役に立てるような企画を継続してまいります。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

発行元

株式会社リプロライフ

Contact Us

〒160-0022
東京都新宿区新宿2-5-3 AMビル9F
TEL.03-5925-8937
Email: **kokunai@reprolife.jp**

Follow Us!

Instagram
reprolife__japan

Youtube
REPROLIFE JAPAN